

第4期野辺地町教育振興基本計画（案）に対する意見の内容及び町教育委員会の見解について

No.	意見の内容	町教育委員会の見解
1 教員に対するサポートについて	<p>教員に対するサポートはとても必要だと思う。宿題の丸つけ、宿題のプリント印刷、授業資料、学級だよりなどの印刷などを対応してくれるサポートスタッフが必要だと思う。スタッフがいて、教員の多忙化解消にも繋がると思う。</p> <p>また時代と共にペーパーレス化となるので、デジタル活用も手かと思う。</p>	<p>当町では学校に様々な支援員を配置しております。授業における困り感がある児童生徒への対応はスクールサポーターが支援を担っています。毎年予算増額を要求し、より支援が必要な小学校から順に増員してきました。現在は2小学校に計13名配置しており、近隣市町村と比べても児童数に対して支援員の数は多いところです。中学校は今後増員する計画です。スクールサポーターと別に県教育委員会の事業を活用し、スクールサポートスタッフを配置しております。印刷や教材準備など教員の業務補助が仕事内容です。</p> <p>デジタル活用については、児童生徒の情報を一括管理する校務支援システムの導入を予定しております。これにより教員は成績処理や帳票作成などの時間を削減することができ、児童生徒に向き合う時間が増加するものと考えております。また、ICT支援員を配置し、先生方のデジタル機器の使用をサポートするほか、児童生徒がタブレットを使う際のサポートを行っております。</p> <p>教育委員会としても支援員の増員については、今後も予算要望をしていきます。</p>
2 特別支援教育の充実について	<p>スクールサポーターの配置は、学習支援員としてだけでなく、生活面もサポートしていただけるサポーターが必要(発達障がいには様々な特徴があるため)。そのため、スクールサポーターの人員、知識がある人を増やしてほしい。</p> <p>また、支援というのはサポーターだけでなく、学びの環境を変えていく必要がある。普通クラスと同じ授業であったとしても、その子に合った学習方法を展開していただきたい。</p>	<p>当町で配置しているスクールサポーターには、学習支援や生活面のサポートをお願いしており、人員についてはNo1のとおりです。教員や保育士等の資格を持っていない方もおりますので、そのような方には経験や研修を通してスキルアップをお願いしています。</p> <p>学びの環境につきましては、紙の教科書で一斉授業を行い、板書を写したり問題集などに書き込んで勉強する時代から、タブレットの導入等、現在は大きく環境が変わってきていますので、いろいろな子どもに合った対応も可能かと思えます。学校と相談しながら進めてまいります。</p>

No.	意見の内容	町教育委員会の見解
3 不登校児童への支援について	<p>不登校への対応案が詳しく記されていないと思う。</p> <p>不登校児童だけでなく、普通の生徒も相談しやすいカウンセリングサポーターの来校頻度を増やした方がいいのではないかと。教員に相談できる生徒は少ないと思うので、教員以外、保健室以外の相談室があったらいいように感じる。</p>	<p>この基本計画は今後5年間の施策の柱を示すものです。そのため個々の施策についての細かな記述はしていません。</p> <p>現状は、来校するカウンセラーには誰でも相談が可能です。これには県教育委員会の派遣基準があり、当町の中学校が一番回数が多い基準になっています。県からはスクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣もあります。当町のSSWにはすぐ対応していただき、大変助かっております。</p> <p>また、学校以外の学びの場所、相談の場所として「教育相談室」を設置しております。今後は学校内にも校内支援センターを設け、子どもたちの居場所で支援できる相談員を配置したいと考えています。</p>
4 学校・家庭・地域の連携・協働の推進について	<p>「幅広い世代との交流」、「地域の教育力を生かす取組」は、町の特色を生かし、青森市や八戸市と同じではなく、小さいからこそそのネットワークをいかした方がよい。</p> <p>保護者や地域のボランティアを活用したり、アルバイトのような方の採用も考え、「開かれた学校」を作っていくと良いのではないかと。</p>	<p>当町の教育には地域の方から多大な御協力をいただいております。それなしでは、実現できない豊かな学習が多く、そこが強みです。例えば特産物の栽培や各種ふるさと学習、職場体験など地元で根差した活動等への支援、保護者ボランティアや登下校時の見守り隊などへの御協力があります。今後さらに周知して、活動を広げていきたいと考えています。</p>
5 不登校児童生徒等への対応について	<p>「スクールカウンセラー」について、心の相談をするスクールカウンセラーに、つなげられるカウンセリングサポーターが、中学では週1日、小学は月2日のみとなっているため、週2～3回来校できる仕組みを作してほしい。この仕組みができることで、不登校・特別支援・通常学級全てにおいて、いじめなど、小さく収められ、様々な問題の早期解決に繋がると思う。</p> <p>また、ここで書かれている「問題行動」とは何か。</p>	<p>スクールカウンセラーの派遣については、No3の通りです。派遣時間は1回3時間となっております。県教育委員会からの派遣のため、町の判断で回数を増やすことはできない仕組みです。回数の増に関して、県教育委員会に働きかけていきます。</p> <p>「問題行動」とは、喫煙、飲酒、万引き・窃盗、家出、深夜徘徊、器物損壊、暴力行為などの刑法犯や不良行為のことですので、分かりやすいように注釈を入れることといたします。</p>
6 教員の指導力の向上について	<p>授業力向上に関して、学びの楽しさに変えることができる授業展開を開拓してほしい。</p> <p>指導力向上に関して、支援員だけでなく、教員一人一人が、発達障がいの子も含めて対応できる知識(いろんな発達障がいの特有があるため、それを学ぶと共に関わり方を学ぶ研修)と行動(言葉遣いや進め方)が、できる人材育成に力を注いでほしい。子供たちは「ふわふわことば」を学ぶが、教員の言葉は時に感情的な場合もある。伝え方、言葉選びをしっかりとした上で、対応してほしい。</p>	<p>教員の授業力、指導力の向上について、人材育成・研修に力を注いでほしい、それらが十分ではない教員がいるとの御指摘、これからの町の教育でも改めて力を入れてまいります。</p> <p>また、特別支援教育は教育の原点であり、個々の子どもの特性に応じた分かりやすい授業を行うことは、教員にとってまた学校にとって大切なことです。誰にとっても分かりやすい、使いやすいなどのユニバーサルデザインの視点に立った授業も多くの学校で取り入れられるようになりまして、当町でも、引き続き力を入れていきます。</p>

No.	意見の内容	町教育委員会の見解
7 教育デジタルトランスフォーメーションの推進について	<p>ICTについて、青森県内の先陣を切って取り組んでほしい。今の子どもたちはゲームも通信、リモートも日常的にしている世代。社会もリモート会議が行われる時代にもなっている。ICT教員のお力を最大に生かしながら、学力低下を補う一つのツールとして展開してもらいたい。</p> <p>また不登校の子に対しても、リモート授業展開をしてはどうか。保健室登校では補うことの出来ない、先生の授業、クラスの雰囲気などをみせることで、授業の遅れ軽減やクラスのイメージもわかっているため、復帰しやすい環境へ近づけることができるのではないかと。</p>	<p>当町でもタブレットを活用した授業に取り組んでおります。社会のデジタル化に合わせ、教員のICT教員活用力も向上し、授業担当教員が各自で研究しながら使っています。デジタル機器を効果的に活用し、学力向上につなげていけるよう推進してまいります。</p> <p>不登校に対しては、オンラインで学んだり、学校の授業とリモートでつなげて学習する機会をもった児童生徒がいます。一度休みがちになっても、その後、学級に復帰する場合や町の相談室等で学習することを選択することもあります。それぞれの御家庭の環境や状況に応じて、各校と模索をしながら支援を行っています。</p>
8 安全・安心で質の高い教育のための環境整備と人的支援について	<p>ICT支援員が活かされていないと思う。技術の高いICT支援員が必要。スクールサポートスタッフの増員（各クラス先生+1人はほしい）。</p> <p>少人数クラスの取り組みはないのか。</p> <p>予算がないからといって、35～36人を1クラスで担任や教科担任が見るのは、厳しいと思う。中学1年生は現に1クラス35人。教室が狭く感じるのは、勉強家財や道具だけではなく、人数の多さにもよるものと思う。学力のサポートだけでなく、生活サポート・指導を行き届きやすくするためには、町ならではの「少人数クラスの実現」をしてほしい。</p> <p>一人一人の能力発揮、個性が生かされる、コミュニケーションの取りやすさ、教員の負担軽減の一つとして、提案です。市内組の学力に負けないものを作るためには、町ならではの取り組みの実現と底上げが必要。</p> <p>出きる子は意欲的にどんどん勉強をしていくが、出来ない子は勉強の仕方、いろんな課題があるため、この底上げが急速に必要と思う。課題が多ければ補えるものでもないため、何か底上げできる体制をしてほしい。</p>	<p>ICT支援に関しては技術力の高い支援員を募集しておりますが、人材を確保するのが難しい状況です。当町では独自のルートで採用し、授業支援の他、教員の業務面でのサポートもお願いしているところで、今後も継続していく予定です。</p> <p>スクールサポートスタッフの配置に関してはNo1の通りです。</p> <p>少人数クラスについて、1学級の人数、学級数に応じた教員数は義務標準法で定められております。町独自に教員を採用することも制度的には可能ですが、予算の問題以上に全国的に正規教員の欠員が課題となっており、当町も同様です。学力の底上げのため、別な方法を考え取り組んでまいります。</p>

No.	意見の内容	町教育委員会の見解
9 競技スポーツの推進について	<p>競技力の向上の対策は今も強いスポーツは大会が多いと思われる。いい面もありますが、サポートする保護者は今や共働きの時代。子どもたちの競技スポーツの送迎、サポートが昔よりとても増えているのが現状である。成長を共に味わえる反面、遠征費の負担や交通費、時間との戦いでもあるので、保護者の負担を少しでも軽減する方法があればと思う。</p> <p>スポーツの時間も育成も大事。しかし子供の時にしかできない遊びや友達との時間(スポーツ以外にも)も作ってほしい。大人になるとそういう時間はなかなかない。親は子より早く亡くなるのが通常。本当の友だちは、人生においての生きていくための宝と思う。友の時間(プライベート)と学業と両立できるスポーツの推進にしてほしい。</p>	<p>現在、町では選手の競技力向上とスポーツ活動推進のための一定の条件のもと「東北大会」及び「全国大会」への大会派遣費事業及び競技スポーツ強化支援事業を実施しております。</p> <p>スポーツにおける保護者の負担軽減は、子どもたちがスポーツ活動に積極的に参加し、健全な成長を促進するために非常に重要な課題と感じております。特に現代の家庭環境において、保護者の時間的・金銭的負担が大きくなることは、スポーツ活動への参加を妨げる要因にもなりえます。そのため、負担軽減の為に、保護者や地域、学校、スポーツ団体が協力し、サポート体制を築いていくことが必要だと考えております。</p> <p>また、子どもは遊びを通して成長し、社会性や協調性が養われます。町教育委員会では、家庭教育支援事業や体験事業などを毎年計画し、親子や友人と楽しむイベントも実施しております。今後も、引き続き子どもたちがスポーツなどを通して楽しみながら友人との絆を深めることができるよう努めて参ります。</p>
10 その他	<p>子どもたちの地域へのボランティアは取り入れることはできないものか。誰かの人のために尽くす心、それによって返ってくる言葉など感じるものがあると思う。海水浴場のごみ拾いや地域のごみ拾いだけでなく、身体が大きくなっている中学には、冬は冬で雪かきのボランティアなど、何かあればいいように感じる。</p>	<p>社会貢献の体験は、子どもたちの成長にとって貴重な社会参画の機会となります。各校では生き方教育、キャリア教育の一環として「誰かのために」「ふるさとのために」といった志をはぐくむ教育がされております。中学生リーダーが小学校を訪れ、挨拶運動のボランティアをしたり、祇園まつりで山車が坂を上がるのを助ける「押忍、押す、押す隊」が活躍したり、美術部が「縄文くらら」のPRを兼ねて町の行事でボランティアをしたり等、活躍してくれています。雪かきボランティアも例年計画し、高校生も様々なボランティア活動に参加してくれています。今後も継続していく予定です。</p>